



発行所 © 紀伊民報社
和歌山県田辺市秋津町
100番地 〒646-8660
電話・0739 (22) 7171 (代)
営業FAX・0739 (26) 0077
編集FAX・0739 (25) 3094
振替口座・00930-2-21977

和歌山支局
電話 073 (428) 7171
串本支局
電話 0735 (62) 7171
新宮通信部
電話 0735 (31) 7174

診察室の午後

白浜はまゆう病院
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

学生の頃、だいぶ日も高くなってきた2月の終わり頃だったと思うが、お世話になった病理学の教授が講義の前に、「お水取りが始まる」と言われた。父と旧制和歌山中学で同窓の教授は当時奈良にお住まいだった。以来、この行事が気になったまま長い歳月が流れた。

〈51〉 「修二会」

東大寺の二月堂では、毎年3月1日から3月14日まで修二会(しゅにえ)と呼ばれる行事が行われる。修二会では練行衆(れんぎょうしゅう)と呼ばれる僧が2週間の間、二月堂でお勤めを行う。東大寺のホームページによると、修二会は

起す過ちを悔い改め、幸福を呼び込むことを祈る法要と解説されている。まさに、春を呼び込むに似ていた行事である。期間中、毎日、練行衆の道明かりとして、大きな松明(たいまつ)に灯がともされ、二月堂の回廊を火の

私たちは古い木造のホテルに宿を取り、「お松明」が始まるまでのあいだ、躍動感あふれる十二神将の新築師を訪ね、家々の庭に梅が咲く懐かしい街道を白毫寺まで歩いた。有名な五色椿にはまだ少し早かった。奈良の仏様には春がよく似

粉を散らしながら駆け抜ける。3月12日の深夜には、観音様にお供えする「お香水(こみずい)」をくみ上げる儀式が行われ、これを「お水取り」と言う。「お水取り」や「お松明」は修二会の別名にもなっている。特に「お松明」は、多くの参拝客でにぎわう。先日、長年の夢がかない、家族で「お松明」を観に行った。早めに奈良に着いた

合つと感じる。お堂の中に漏れてくる春の光が仏像をやさしく包む。二月堂には5時半すぎから、既に多くの人が集まり、「お松明」を待っていた。暗くなると冷え込み、見上げる回廊のつり灯籠には明かりがともされていた。しばらくして、松明が左側の階段を上って二月堂の回廊を走り、観衆の頭上に火の粉が舞った。幻想的な中に、清められているという感覚があった。同時に、2月半ばから続く僧たちの厳しい行を想像した。

752年から、毎年一度も途絶えずに続けられたと

いうこの修行には、世俗の世界とは別の、確固たる心の世界がある。そして世俗にある私たちの心も引きつけられ、守られることを願うのだろう。